放課後等デイサービス事業所における自己評価結果（公表）

公表：令和4年3月18日　　事業所名 olea AZUMADA

		チェック項目	はい	どちらともいえない	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点を踏まえた改善内容又は改善目標
環境・体制整備	1	利用定員が指導訓練室等スペースとの関係で適切である	100%				
	2	職員の配置数は適切である	66%		33%		人員基準を満たしていますが、療育の質を高めるため職員募集を実施し、来年度採用確定済みです。
	3	事業所の設備等について、バリアフリー化の配慮が適切になされている	33%	33%	33%		バリアフリー化はされております。
業務改善	4	業務改善を進めるためのPDCAサイクル（目標設定と振り返り）に、広く職員が参画している	66%	33%		個別支援計画会議やケースカンファレンス、日々のミーティングの中等で必ず全職員参画しています。	
	5	保護者等向け評価表を活用する等によりアンケート調査を実施して保護者等の意向等を把握し、業務改善につなげている	66%	33%			本年度が初めての評価となりますので、保護者様からの貴重な意見を基に改善に努めています。
	6	この自己評価の結果を、事業所の会報やホームページ等で公開している	100%				本年度が初めての評価となりますので、HPへ公開してまいります。
	7	第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげている	33%	66%			外部評価の取り入れ業務改善につなげてまいります。
	8	職員の資質の向上を行うために、研修の機会を確保している	100%				各種研修は積極的に実施しております。
適切な支援の提供	9	アセスメントを適切に行い、子どもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、放課後等デイサービス計画を作成している	66%	33%			利用時の様子や他事業所での情報共有、利用者と保護者のニーズや課題を総合的に分析した上で、放課後等デイサービス計画を作成していきます。
	10	子どもの適応行動の状況を把握するために、標準化されたアセスメントツールを使用している	66%	33%			
	11	活動プログラムの立案をチームで行っている	100%				基本ベースについては児童発達支援管理責任者が作成。他職員とともにベースに基づいたプログラムを立案しております。
	12	活動プログラムが固定化しないよう工夫している	100%				短期・中期・長期に渡るプログラムでの活動と、曜日や長期休暇時のプログラムを変更し実施している
	13	平日、休日、長期休暇に応じて、課題をきめ細やかに設定して支援している	100%				上記と同様
	14	子どもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせて放課後等デイサービス計画を作成している	33%	66%			
	15	支援開始前には職員間で必ず打合せをし、その日行われる支援の内容や役割分担について確認している	100%				朝礼等で個別問題点や情報の共有を行っております。
	16	支援終了後には、職員間で必ず打合せをし、その日行われた支援の振り返りを行い、気付いた点等を共有している	100%				終了後のケース共有や振り返りを実施しております。
	17	日々の支援に関して正しく記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげている	100%				
	18	定期的にモニタリングを行い、放課後等デイサービス計画の見直しの必要性を判断している	100%				
	19	ガイドラインの総則の基本活動を複数組み合わせて支援を行っている	66%	33%			利用者の状態に応じて基本活動を複数組み合わせた支援を行ってまいります。

関係機関や保護者との連携	20	障害児相談支援事業所のサービス担当者会議にその子どもの状況に精通した最もふさわしい者が参画している	100%				
	21	学校との情報共有（年間計画・行事予定等の交換、子どもの下校時刻の確認等）、連絡調整（送迎時の対応、トラブル発生時の連絡）を適切に行っている	100%				
	22	医療的ケアが必要な子どもを受け入れる場合は、子どもの主治医等と連絡体制を整えている	66%	33%			医療的ケア児を受け入れておりません。
	23	就学前に利用していた保育所や幼稚園、認定こども園、児童発達支援事業所等との間で情報共有と相互理解に努めている	33%	66%			情報共有をしておりますが、足らないと感じることが多いため、積極的に会議等に参加してまいります。
	24	学校を卒業し、放課後等デイサービス事業所から障害福祉サービス事業所等へ移行する場合、それまでの支援内容等の情報を提供する等している	33%	33%	33%		該当者が現在はおりません
	25	児童発達支援センターや発達障害者支援センター等の専門機関と連携し、助言や研修を受けている	33%	66%			研修・連携の機会があれば積極的に参加してまいりたいと思います。
	26	放課後児童クラブや児童館との交流や、障がいのない子どもと活動する機会がある	33%	33%	33%		コロナ禍のため、リスクと取らず放課後児童クラブなどとは交流を持たず運営してまいりました。今後コロナが収束した場合はぜひ交流したいと考えます。
	27	（地域自立支援）協議会等へ積極的に参加している	33%	33%	33%		今後、会議案内等来た際には、積極的に参加していきたいと思います。
	28	日頃から子どもの状況を保護者と伝え合い、子どもの発達の状況や課題について共通理解を持っている	66%	33%			本年後、後半に保護者との個別面談の機会をつくり、発達の状況や課題について共有を図ります。
	29	保護者の対応力の向上を図る観点から、保護者に対してペアレント･トレーニング等の支援を行っている	33%	33%	33%		
保護者への説明責任等	30	運営規程、支援の内容、利用者負担等について丁寧な説明を行っている	100%				
	31	保護者からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、必要な助言と支援を行っている	66%	33%			
	32	父母の会の活動を支援したり、保護者会等を開催する等により、保護者同士の連携を支援している	33%	33%	33%		来年度は保護者会を実施できるうよう計画を立てて参ります。
	33	子どもや保護者からの苦情について、対応の体制を整備するとともに、子どもや保護者に周知し、苦情があった場合に迅速かつ適切に対応している	100%				
	34	定期的に会報等を発行し、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報を子どもや保護者に対して発信している	100%				
	35	個人情報に十分注意している	33%	33%	33%		個人情報について、保護者様と同意書を交わした上で契約をしておりますが、改めて個人情報に関する研修等、職員の意識向上に努めます。
	36	障がいのある子どもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしている	100%				
	37	事業所の行事に地域住民を招待する等地域に開かれた事業運営を図っている	66%		33%		

非常時等の対応	38	緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアルを策定し、職員や保護者に周知している	100%				
	39	非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っている	100%				
	40	虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしている	66%	33%			研修の機会を増やし、虐待についてのさらなる知識向上を図ってまいります。
	41	どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、子どもや保護者に事前に十分に説明し了解を得た上で、放課後等デイサービス計画に記載している	66%	33%			
	42	食物アレルギーのある子どもについて、医師の指示書に基づく対応がされている	33%	66%			保護者からのアレルギー情報などは契約時に確認しておりますが、各職員がわかりやすいように一覧化を進めたいと考えます。
	43	ヒヤリハット事例集を作成して事業所内で共有している	66%		33%		パソコンのツール上での共有は図っておりますが、事例集としての冊子などは無いため、改めて作成して参ります。